

令和二年度 奈良県租税教育推進連絡協議会会長賞

「たばこ税という存在」

大淀町立大淀中学校 二年 南 日奈

税について調べていたとき、用語の中のたばこ税という言葉が目に入りました。消費税とは違い、たばこという特定の物にかかる税を初めて知ったこともあって情報を探してみると、他とは大きく異なる点がありました。

それは税率が約六十パーセントと、異様に高いということです。現在の消費税の税率が十パーセント、八パーセントで、比べると大きな差があることが分かります。たばこには複数の税がかかっていてその内の十パーセントが消費税そして「国たばこ税」「地方たばこ税」「たばこ特別税」の四種類があることも知りました。

どうして税率がこんなに高いのでしょうか。こちらも調べてみると消費税と違い増税しやすいから、という理由があり、「なるほど」と私は思いました。確かにたばこ税はたばこを吸う人にしかかからないし、たばこ自体が人にとって有害であることは広く知られているので国民の反感を買いにくい、そのため増税も比較的簡単で税率が高い、私はこの税の存在を賢いなと感じています。たばこを買えば国の収入は増えて、値段が高い、と買う人が少なくなればそれに伴って受動喫煙などのたばこによる問題も少なくなる、実際に昔と比べ喫煙者は減少しています。

たばこを買っても買わなくても国と非喫煙者の得になる…とは言い切れないようで、たばこ税による税収も減少傾向にあります。たばこ税は国の百兆円をこえる歳入額の約一パーセントを占めるので無視をできるようなものではないでしょう。ではどうすればよいのか私は考えてみました。そして思いついたのが、消費税税率をほんの少しだけ上げるというものです。もちろん仮に上げるとしても先の話ですが、二〇十九年の十月に消費税は一部が八パーセントのまま、二パーセント上がって十パーセントになりました。そして二〇二〇年の消費税税率の引き上げによる増収分は約二兆円、二パーセントの増税でそれほど税収が上がるのなら一パーセント未満の増税でも、たばこ税の税収の減少を補うことができるかもしれないし、今までの税率の引き上げに比べると、社会への影響は小さくなると思ったのです。でも、これは全て予想にすぎなくて、様々なアイデアを出せたとしても、日本全体に関わることなので試してみるにも容易ではないのだと思うと、国の問題一つを解決するのはものすごく大変なんだと考えている時に感じました。

色々調べてみて初めて知ったことがいくつもありました。たばこ税の存在、そしてその税は四種類もあったということ、途中で酒税なんていう税の存在も知り、私が見ていなかった社会のしくみにほんの少しだけ気づかされました。今回学んだことから、私はきっとたばこを吸うことはないでしょう。そして、これから税についてもっと知って行きたい、そう思いました。